

2025年度 第3回システム活性化部会 議事録

1. 開催日時：2025年12月18日（木）15：15～17：00

開催方法：ふれあい貸し会議室品川No.19 および web 会議の併用

出席者：石井理事長、青山副理事長、宇佐見理事、浦理事、桑本理事（web）、坂本理事、志々目理事、則松理事、堀井理事（web）、吉村理事、若林理事、日笠山監事、羽染監事、瀬瀬国際副委員長、薦田災害対応 TF リーダー、塩澤普及啓発副委員長、千葉普及啓発副委員長（web）、古田資格認定専門副委員長、小竹主査、小林主査、林主査（web）、福島主査

欠席者：宮脇副理事長、大野副理事長、副田国際副委員長、下村受託 TF リーダー
議事録署名人：

吉村理事、若林理事の2名が議事録署名人となることが紹介された。

2. 報告事項

(1) 計画・設計・管理要領改訂タスクフォース

- 理事会直下に TF を設置し対応する。理事会承認済み。執筆編集部会のメンバーについては調整中。
- 全都清からの委託契約が締結でき、着手届を事務局で準備中。年内提出予定。

(2) 最終処分場災害対応タスクフォース

- 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されるなど、今後の地震発生時の LSA としての対応方針を検討する必要がある。
- 発災後の LSA の活動に対する責任について、考え方を整理する。

(3) 運営委員会

- システム活性化部会に先立って開催された理事会で謝金規定改訂が承認された。2026年4月1日より施行。
- 事務所の引っ越しについては、弁護士を通じて協議中。

(4) 普及・啓発委員会

- 施設見学会の収支は、バス代等の負担が大きく約18万円の赤字との報告があった。
- 来年の環境講演会のテーマについて意見交換された。集客に影響するため、タイトルは要検討。また、幅広いテーマと狭いコアなテーマを交互に実施してはどうか等の意見が出た。

(5) 国際委員会

- APLAS2026 の準備状況は、開催国側の進捗が想定より遅れているの報告があった。
- ビジネスセッションについて、参加企業と開催地でのマッチング方法など、在り方を再考した。

(6) 事業活性化委員会

1) 資格認定専門委員会

- 今年の実験者は例年並みの9名。次回より会場を変える予定。

2) 機能検査普及専門委員会

- 機能検査の普及には LSA 直営ではなく機能検査団体で受託する事を勧める。事務局への相談件数などを公表し、企業に興味を持ってもらう。
- 企業の仕事になれば資格受験者も増えると思われる。

3) 匠の会

- 機能検査団体規定の見直しを検討中。守秘義務に抵触しない範囲で、実施状況の報告及び HP での公表を求めたい。

(7) 研究展開委員会

- プレスタディテーマの本テーマへの移行手順を明確にした。
- オープン型処分場の事例情報について、普及・啓発委員会と連携して進めている。
- 11 月委員会で各分科会の進捗、予算執行状況を確認。予算超過しない見込み。

1) 研究成果編集専門委員会

- 都市清掃への連載企画について、第 1 回は入稿済み校正中、第 2 回は入稿済み、第 3 回は執筆・確認中。
- 全都清研究・事例発表会に 6 編を投稿。1/22 に発表。

2) 研究分科会活動報告（主な内容）

- 脱炭素（土木）で予定している学識者ヒアリングについて、理事長から適する方として、海上・港湾・航空技術研究所の桑江領域長、納庄研修員の紹介があった。
- DX の会員向けセミナーは、匠の会と連携し名称は「技術セミナー」とする。セミナー関連の予算枠を明確にする。2 月開催で計画中。
- 漏水検知は 1 年間延長の計画であり、今年度で纏める。
- 計画から廃止は、オープン型の一覧を既に普及啓発委員会に送付済み。アンケートは昨年度配布できなかった自治体を対象。
- 未規制物質は、国が規制した時に稼働中施設がどう対処すべきか、情報収集・課題整理を進める。

3. 事務局からのお願い

- 委員会、専門委員会、分科会の 2025 年度収支は、2/20(金)までに事務局へ報告のこと。
- 今年度内の支払いについて、請求書は 3/19(木)事務局必着。
- 立替金精算について、経費精算書類一式の提出は 3/19(木)事務局必着。

次回 2026 年 3 月 19 日(木) 15 : 15～

以上

議事録作成：若林秀樹 吉村丈晴